

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市順化小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

- 白鳥懇話会（家庭・地域・学校協議会）
- 学校（3名＋関係教諭）
 - ・ 校長 教頭 教務主任 関係教諭
 - 地域（11名）及び 保護者（2名）
 - ・ 教育振興会長、自治会連合会長、公民館長 健康クラブ会長、婦人会長、主任児童委員 交通安全協議会長、子ども会育成会長 青少年育成市民会議順化支部長 体育振興会長、社会福祉協議会長 PTA会長、PTA直前会長
 - 地域コーディネーター（3名）
 - ・ 教育振興会長、公民館長、主任児童委員

(2) 協議会の内容

- 年間3回開催
- 6月12日、11月13日、2月19日
- 協議内容
 - ・ スクールプランについて
 - ・ 研究推進計画について
 - ・ 児童の安全・安心について
 - ・ 教育ウイークの実施について
 - ・ 家庭、地域、学校の連携について
 - ・ 児童の学力について
 - ・ 学校評価について
 - ・ 令和2年度の予定について
 - ・ 複合化に向けての運営の仕方について

(3) 協議会における成果と課題

<成果>

- スクールプランや学びの地図など、学校の経営方針や取組状況を説明し、家庭や地域の団体長から意見をいただくことで、交通安全指導、見守り隊活動や地域と連携した体験推進事業の充実を図ることができ、家庭や地域との協力体制を強化することができた。

<課題>

- 公民館との複合化が完成するため、地域と学校との連携・協働した取組、運用の仕方、管理のあり方など、具体的な取り決めを考える必要がある。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- 地域の人との関わりの中で地域の歴史や文化などを学ぶ機会を通して、児童が地域の課題を見つけ、課題に対する改善策を考え、発信していく活動を行うことで、地域に誇りや愛着をもつ子の育成を図る。
- 地域に生きる人々との関わりを通して、研究主題である「地域に生き、未来を拓く学びの創造」を踏まえ、地域への人々の思いを理解し、城下町で生きていく力を培う。

(2) 活動の実際

- 順化地区を活性化する未来の提言書を発表（6年生）順化地区で児童が課題をもって調べたいエリア（駅前、片町）を公民館にある「福居まんなか歴史会」サークルの方々の協力を得て、6月に駅前地区と片町地区の町探検を行った。9月には、ゲストティーチャーに福井市役所の都市整備室の方を招いて、歴史の道など観光客が歩きたくなるような福井のまちづくりについて教えて頂いた。児童は、学校周辺で工事をしていることについて考え、福井の未来のビジョンに基づいて進められていることを理解した。そして、「順化地区の未来を考えよう」のテーマのもと、調べたことを資料にして順化地区の活性化案を一人一人考え、その内容を文字とイラストでまとめた。例えば、「福井市営体育館の前にラウンドワンをつくります」「新栄商店街をふれあい動物

園にします」「中央公園に託児所と遊具をつくります」などである。この案を、地域の各種団体長で構成する白鳥懇話会（家庭・地域・学校協議会）で発表した。委員からは、児童の素朴でアイデア豊かな活性化案であると大変好評を得た。「順化地区を活性化しよう」というリーフレットを順化地区への未来の提言書をして、市役所、公民館、地域の各種団体長、各学年に配布し、児童が考えた順化地区の未来への提言書を地域住民に示した。



（３）地域コーディネーターの活動概要

- ①「順化地区の未来を考えよう（６年生）」では、家庭・地域・学校協議会（白鳥懇話会）で、６年生一人一人が考えた順化地区の活性化案の発表をすべて聞きご高評をいただいた。
- ②学習発表やお堀の灯籠づくりでは、地域団体の「福居まん中歴史会」や公民館の方々、地域住民とのコーディネートをしていただいた。
- ③「未来探検 in 順化」（５・６年生）では、講師選定にアドバイスをいただいた。そのほかに、昔遊びの講師選定で、順化健康クラブや社会福祉協議会に働きかけ、地域の講師を１２名選定していただいた。

（４）特に工夫した事項

本年度購入した教材提示装置の２台を含め、教材提示装置を全学年に設置した。どの学年においてもすぐ活用できる環境にしたので、児童の活用度が高まった。老人ホームでの交流で体験したことや学んだことを発表したり、地域の偉人の資料を提示して学習したりしたことで、学びを広げ深めることができた。

次に、児童自身に地域の未来像を描いてもらうために、６年生が考えた順化地区の活性化案を、順化地区の未来の提言書としてまとめ、地域に情報発信した。

更に、「順化小学校学びの地図」を担当者で作成し、教員間で共有するとともに、学年毎に「学びの地図」を作成することで、学校・学年行事が「地域と交流する」「地域に学ぶ」「地域と主体的に関わる」のどの領域に関係してくるのか、また、行事のねらいや全体での位置づけを認識することができ、行事等の見直しにも大変役立った。

（５）成果と課題

<成果>

- 地域の語り部さんの話を聞いたり、家庭・地域・学校協議会に参加したりすることで、児童と地域の人との関わりが大きくなった。
- 地域の歴史や文化などを学び、順化地区の課題を見つけ、活性化させるための改善策を考え、未来への提言書として地域に発信することができた。
- 地域学習に興味を持って学習できた児童の割合が昨年よりも向上し 91%に達した。

<課題>

- 順化地区で会社やお店を営んでいる方々やまちづくりに関わっている方々への発表や交流を取り入れ、よりよい順化地区の活性化案を地域の方々とともに考える場を考えていきたい。
- 順化地区ならではの特性のあるものを見つけ、地域と一体となって発信していくことができるようにする。